

なきごえ



1985

8

大阪市
天王寺動物園協会

辻本 修



幼稚園児の頃、文の里に住んでいたので南海電車平野線（現在廃止）で、動物園へよく行ったのが、私を動物好きにしたのでしょう。中学時代の日曜日にはよく天王寺公園へ行きました。坂道の北側に理科器具や機械を展示した博物館があり、そこを見てから動物園に入り、帰りにはグラウンド（現在の北園のカモシカ園のあたり）で、野球を見た記憶があります。とても、なつかしい思い出です。

戦後の動物園とのつき合いは、昭和25年頃からです。当時、私は高校の生物の教師でした。中学校の先輩の筒井嘉隆先生が科学博物館建設の準備をされ、戦災後の市内の学校に、どんな動物標本が残っているかを調査されていたときで、私はそのお手伝いに、博物館建設事務室になっていた美術館の2階の部屋へよく行き、そして筒井先生につれられて、動物園を訪問することが、たびたびありました。

博物館建設の準備予算が、ジェーン台風の災害復興のために流れてしまい、博物館がいつできるかわからない昭和26年に、北海道厚岸沖で捕獲された17.3mのナガスクジラの骨格が、大洋漁業株式会社から標本にと、博物館に寄贈されました。博物館の建物ができるまで、動物園にあづかってもらうことになり当時、博物館勤務の堀勝先生が、2月から3月の寒

い時期に、ドラムカンに入れた水酸化ナトリウム液で骨の脱脂をし、苦心して組み立てられました。私はその組み立てを写真により記録し、今もそのネガを持っています。組み立てた巨大な骨格標本は、北園の北端の道路近く（現在の小獣舎のあたり）に展示されていました。昭和33年、自然科学博物館が西区靱（靱公園の南側で、今は高層住宅が建っている）に開設された時、この入口に骨格は移され、更に現在は長居公園内の自然史博物館の2階第3展示室の天井につるされ、展示されています。

講和条約成立記念「婦人とこども大博覧会」が天王寺公園を中心に開催された昭和27年に、南園の白鳥池に、プロントザウルス、ケラトザウルス、ステゴザウルスの恐竜の実物大の模型が、市立大学地学教室の池辺展生教授の指導で完成しましたが、その製作状況も写真で記録しました。プロントザウルスと、それにかみついているケラトザウルスは、こわれてなくなってしまいましたが、ステゴザウルスは今でもあります。

昭和28年、自然科学博物館が日本最南端のトカラ列島（まだ、奄美大島が日本に返還されていなかった）の科学調査をしました。この調査団の一員として私も参加しましたが、この時、宝島のアダン林に放し飼いされている在来種の小さい馬（トカラウマ）をみつけ、生後10ヵ月ほどの仔馬2頭を調査団が買い、市民へのプレゼントとして動物園へ贈りました。現在、シマウマと同居している茶色の馬は、トカラウマの雄と、グラントシマウマの雌との雑種です。また「なきごえ」創刊のお手伝い、園外保育の場としての動物園の利用研究など、いろいろな思い出があります。

（ひかりのくに株式会社広報室長）
（大阪保育学院講師）

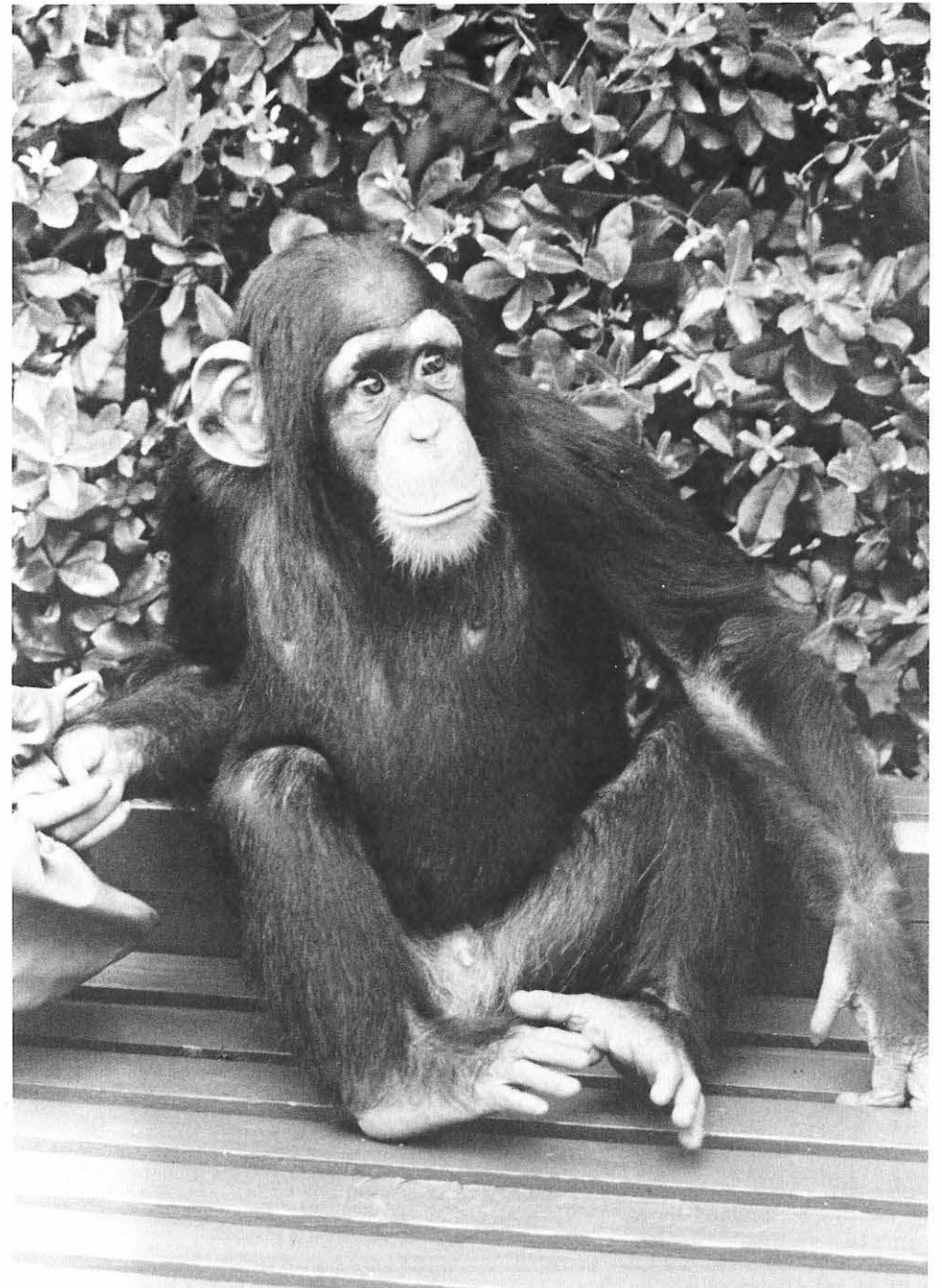
写真説明：昭和26年3月、北園北端でナガスクジラの骨格の組み立てを行っているところ

なきごえ8月号もくじ

動物と私 2
新入りのリッキーです。よろしく!!” 3
動物園グラフ・動物園日記 4-5
動物園の花暦 6-7
マントヒヒの人工哺育 8-9
動物なんでも相談室 ⑩ 10
動物園ニュース 11

表紙の写真説明

“サイチョウ” (*Buceros rhinoceros*)
分布地：マレーシア、スマトラ、ボルネオ、ジャワ
サイチョウの仲間は、メスが産卵すると巣洞の中から糞や木くずに唾液を混ぜて入口を細いすき間だけを残してふさぎ、抱卵に入るおもしろい習性をもっています。これはサルの被害を防ぐために発達した護身適応といわれています。
(撮影・説明：森本委利)



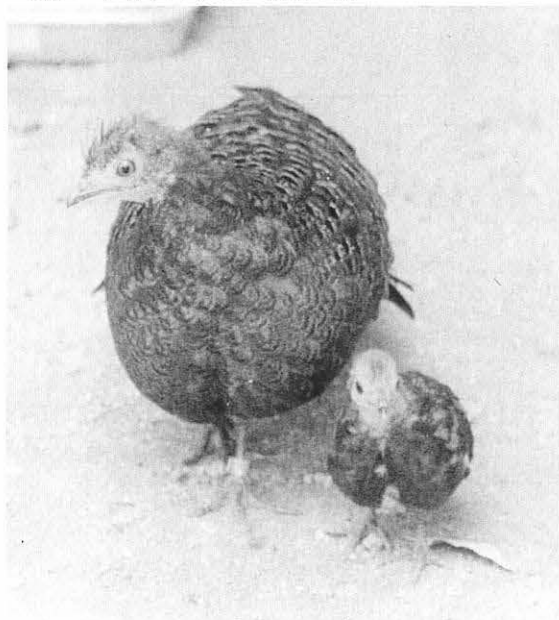
“新入りのリッキーです。よろしく!!”

静岡市の日本平動物園で生まれたオスのチンパンジー（愛称リッキー）が、さる6月10日、当園にお越しいれました。2才4ヶ月とわんぱく盛りですが、園内の散歩は未知との遭遇が多いだけに、不安気な顔つきです。
(撮影：堀 弘)

動物園グラフ

今月のグラフは、今年生まれた動物を特集してみました。
1月から7月に生まれた動物をすべてあげてみましたが、
すごいベビーラッシュです。(構成：榊原安昭)

- 1.29 ケープペンギン
- 2.12 アカカンガルー袋内に子を確認
- 2.22 アカカンガルー袋より子出る
- 3.20 ラマ(♀)
- 3.24 メンヨウ(♂)
- 3.25 バーバリーシープ2頭(♀♀)
- 3.28 メンヨウ(♂)
- 3.31 バーバリーシープ(♂)
- 4.1 バーバリーシープ2頭(♂♀)
- 4.11 フンボルトペンギン
- 4.14 リュウキュウイノシシ5頭(♂2♀3)
- 4.16 コノオビアルマジロ(♂4)
- 4.21 ハイロコジャク(自然ふ化)

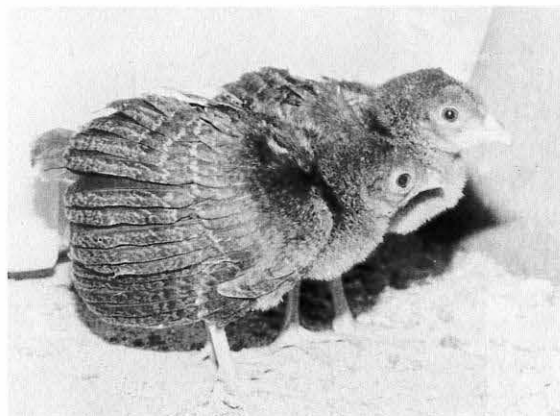


- 4.23 アオサギひな確認
- 4.27 コサギひな3確認
- 4.29 インドオオコウモリ
- 4.29 バーバリーシープ(♀)
- 4.29 ニホンザル(♀)
- 4.29 コサギひな確認
- 5.3 カササギ3

5.4 マントヒヒ(♀)



5.4 セイラン2(人工ふ化)



- 5.7 タスマニアデビル袋内の子確認
- 5.10 ブラックバック
- 5.11 シュバシコウひな9確認
- 5.12 ニホンザル(♂)
- 5.12 アカヤマドリ3(人工ふ化)
- 5.13 フェレット4
- 5.14 フェレット2
- 5.15 ニジキジ2(人工ふ化)

6・7月の動物園日記

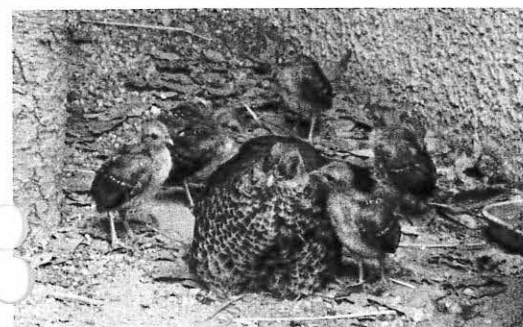
- 6/12. バーバリーシープの雌が首を強く打って急死しました。
- 6/13. キンカジュウが交尾しました。
- 6/14. オオヅルが1卵目を生みましたが破卵しました。
- 6/15. フランソワルトンが1頭生まれました。
- 6/16. カリフォルニアアシカが1頭生まれました。
- 6/17. アミメキリンの“ムッコ”が出園しました。ニホンジカの本年3子目の子が生まれました。オオヅルが2卵目を産みましたが、人工ふ

- 化させるため、ふ卵器へ入れました。
- 6/18. フランソワルトンの子が順調に育っています。
- 6/19. チンパンジーの雄の子供“リッキー”(静岡市立日本平動物園生まれ、2歳4か月)が入園しました。ニホンザルの子が生まれました。
- 6/21. コノオビアルマジロ舎の巣材用干草を交換しました。
- 6/22. レアが産卵しました。
- 6/24. カリフォルニアアシカが1頭生まれました。これで、本年2産目です。6月16日生まれのカリフォルニアアシカの

- 5.17 キョン
- 5.18 カンムリウズラ(人工ふ化)
- 5.19 ニジキジ(人工ふ化)
- 5.19 タヌキ6
- 5.19 キョン
- 5.20 アカヤマドリ
- 5.20 ニホンザル(♂)
- 5.21 コプハクチョウ6



- 5.21 ニホンザル(♂)
- 5.22 ニホンザル
- 5.24 シマハッカ(人工ふ化)
- 5.25 マレージャコウネコ
- 5.27 ニジキジ(人工ふ化)
- 5.27 アカハシリウキウガモ(人工ふ化)
- 5.27 アヒル6
- 5.28 フクロギツネ2袋内に子を確認
- 5.29 フクロギツネ袋内に子を確認
- 5.29 カンムリウズラ(人工ふ化)
- 5.29 ニホンジカ(♀)
- 5.30 ブラックバック(♂)
- 5.30 カンムリウズラ2(人工ふ化)
- 5.30 ニホンジカ(♀)
- 6.1 ハクビシン4
- 6.2 アヒル5
- 6.5 ペニジュケイ(人工ふ化)
- 6.5 ミヤマハッカ5(自然ふ化)



- 6.6 ミヤマハッカ(自然ふ化)
- 6.6 シマハッカ4(自然ふ化)
- 6.7 ミヤマハッカ(自然ふ化)
- 6.8 カンムリウズラ(人工ふ化)

- 体重測定を行ないました。
- 6/25. 抱卵中のマナヅルの卵が破卵しました。
- 6/27. フランソワルトンの子が、親が食事のときだけ、母親から離れて一人で遊ぶようになりました。ニュージーランド大使館のウィルソン書記官が来園見学されました。
- 6/28. サシバを1羽保護しました。
- 6/29. アジアゾウのユリ子が結膜炎のため、さっそく治療に入りました。
- 6/30. ジャッカルの子が咬傷で入院治療することになりました。
- 7/1. チンパンジーの雄“リッキー”の内部寄生

- 6.11 ミヤマハッカ(自然ふ化)
- 6.14 カンムリウズラ6(人工ふ化)
- 6.14 ニジキジ(人工ふ化)
- 6.15 フランソワルトン(♀)



- 6.15 セイラン(人工ふ化)
- 6.15 ニホンキジ(人工ふ化)
- 6.16 カリフォルニアアシカ(♀)



- 6.16 セイラン(人工ふ化)
- 6.17 ニホンジカ(♂)
- 6.19 エボシキジ(人工ふ化)
- 6.19 ニホンザル(♂)
- 6.21 カンムリウズラ7(人工ふ化)
- 6.23 ニホンキジ2(人工ふ化)
- 6.24 カリフォルニアアシカ(♀)
- 6.26 マクジャク(人工ふ化)
- 6.28 カンムリウズラ8(人工ふ化)
- 6.29 ニホンキジ(人工ふ化)
- 6.29 カンムリウズラ2(人工ふ化)
- 6.30 ニホンキジ(人工ふ化)
- 7.2 マクジャク(人工ふ化)
- 7.2 カンムリウズラ(人工ふ化)
- 7.3 スワローバト
- 7.4 ニホンジカ(♀)
- 7.4 フェレット6
- 7.5 ニホンザル
- 7.6 アオサギ
- 7.13 カンムリウズラ7(人工ふ化)
- 7.17 コジュケイ2
- 7.17 インドクジャク(人工ふ化)
- 7.18 ニジキジ(人工ふ化)

- 虫の駆虫を行ないました。
- 7/3. 第21回動物園教育研究会が当園で開催されました。キーウィの3羽の人工巣を清掃しました。キーウィ、ハリネズミ、ハリモグラの体重測定を実施しました。
- 7/4. ケナガイタチが6頭生まれました。
- 7/5. ニホンザルが1頭生まれました。
- 7/7. 6月24日生まれのカリフォルニアアシカの子の体重が減少してきたので、人工乳の補給をしてやることにしました。
- 7/8. ジャッカルの子が退院しました。
- 7/9. アミメキリンの雄(2才)が入園しました。

動物園の花暦

動物園は動物が主役であることはいまでもありませんが、その動物、あるいはその動物を収容している動物舎をいかにひきたて、かつ調和させるかということでは植物の占める位置は大きなものがあります。また入園された方々の目をなごませるためにも花と緑は動物園では欠かせないものです。

天王寺動物園ではこれらの植物の維持、管理に現在18名の管理課職員が携わっており、内5名の職員で園内の花壇、フラワーベース、プランタ、苗床を管理しています。園内のこれら花壇に常に花を絶やすことなく、四季折々の花を植えこんでいますが、



中央門前の白雪姫時計台の花壇
チューリップとパンジーが開花中

その一年間を通した動物園の花暦をご紹介します。

§ 園内の花壇

園内には大小あわせると約30ヶ所の花壇があります。大きなものは、中央門に入って正面の白雪姫時計台、カモシカ園南側、南門の入った正面、キジ舎の中央正面などの花壇で、小さいものは各動物舎の側面や周囲に、限られた面積ではありますが、できるだけ動物舎の景観を高めるように花壇を配しています。また園路の随所にはコンクリート製のフラワーベースを約100個、プラスチック製のプランタを約200個設置して、園内いたるところで花を見ていただけるようにしています。

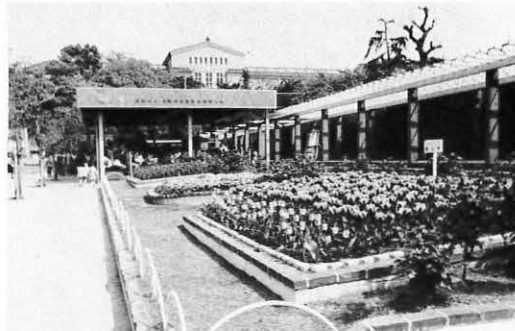
またこれらの花を育てるための苗床は園内に2箇所設けています。

§ 四季の花

一年間に植えつける花は表のとおり29種類にも及びます。この中でも四季の代表的な4種類の花をご紹介します。

〔春〕この季節は開花する種類も大変多く、園内には色とりどりの花を植えこめるので、我々にとっても大変仕事のやりやすい時期であり、また工夫をこ

らしたりすることもできます。その中でも代表格はなんといってもチューリップで、11月頃に植えこんだ5000球の球根が春に一斉に開花します。花壇一面にチューリップが開花するのは大変見ごたえがありますが、残念なことは開花時期がわずか10日程しかないことでしょうか。もう少し花もちがよいともっと多くの方々に楽しんでいただけるのですが、5カ



カモシカ園南側のチューリップ花壇

月も育ててきてわずか10日の開花日数では無念やるかたなしです。

〔夏〕暑さに負けまいとまっ赤な花を咲かせるサルビアがこの季節の代表花ではないでしょうか。3月頃に挿種をし、苗床で育ててきた苗は7月末頃に園内の花壇に定植します。このサルビアは11月頃まで開花するので長く楽しむことができますが、その間、咲き終えた花の摘芯や追肥など、いろいろな作業が必要です。この暑い時期に一番問題となるのは灌水ですが、理想的には早朝、夕方の気温の高くない時間帯にするのがよいのですが、勤務時間からいってもこれはとても無理なのが残念です。

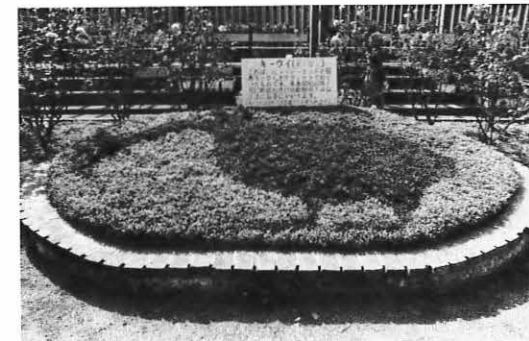
〔秋〕やはりこの季節は日本の代表花、菊をぬきには考えられないでしょう。5月頃からさし芽をして育てた苗は、定植までに実に6～7回も摘芯を行います。害虫も多く薬剤散布も欠かせません。育てあげた菊は、小菊は花壇やフラワーベースに、大菊は3本立てにして鉢に植えて飾ります。また盆栽仕立の懸崖もこの菊には欠かせないもので、みごとな懸崖は入場門のところに並べてその美しさを楽しんでいただいています。

〔冬〕花の少ない時期で、彩りに大変苦労します。パンジーも咲いていますが、やはり冬はハボタンをあげたいと思います。7月下旬に播種をし、12月に定植するまでに4回も苗の移植をします。これは背だけが伸びないように抑えるためと、株を太らせるために行うものです。ハボタンは赤と白の2種類があり、これをうまく並べることによって、寒々とした園内もなにかしら正月の華やかな雰囲気が漂うから



ハボタンの花壇

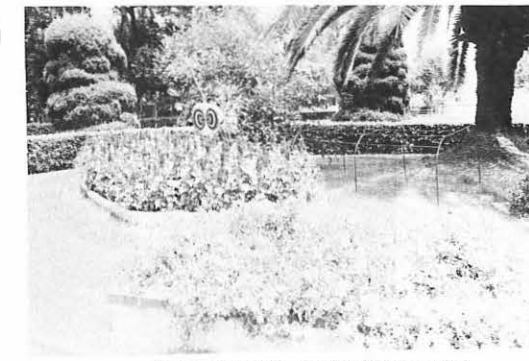
不思議です。またこのハボタンは模様を描くのもうってつけで、時にその年のエトの動物をハボタンを使って描いたこともあります。



アキランサスで描いたキーウィ

§ 花を守る

我々が丹誠こめて作った花だけに愛着はひとしおです。入園者の方々が抜き取るということのはめつたにありませんが、一番困るのはハトの食害です。特に苗の時期にはその若芽をハトにほとんどやられてしまいます。ハボタンやペゴニアはその被害も大変



ケイトウとペチュニアの花壇に設けた
ハト対策用の目玉看板

大きく、その防除方法は我々にとっても頭の痛いところ。現在ハト対策に2つの方法を用いています。一つは、フラワーベースをすっぽりと防虫網で

囲ってしまう方法。これは効果が高いのですが、いかんせん見ばえが悪すぎます。もう一つは鳥が驚いて近寄らないという目玉模様の看板を作って花壇に立てています。最初は確かに効果があつてハトも近寄らなかったのですが、最近は慣れてきたのか、平気でその看板の上に止まったりしています。何か名案があつたら教えていただきたいものです。

§ これからの花作戦

当園で扱う花としてはパンジー、ペゴニア、サルビア、菊が中心です。これは安価なこと、開花時期が長いこと、の二つの条件にあてはまっているからにすぎません。しかし、入園者の方々にもっと花を楽しんでもらうためにも、ダリアやテッポウユリなどいろいろと植えていきたいと考えています。

また入園者の方々がはっと目を見はるような花壇作りも考えています。各入口を入った正面の花壇を整備して、後方を高くもりあげて一面に咲きほこる大パノラマ花壇を計画しています。

現在、園内の緑と対比させるためにもできるだけ原色に近い色の花を多く用いています。特に赤やピンク系統が多いのですが、これも動物舎との調和を考えながらその色、配列なども検討してみたいと思います。

動物主役の動物園ですが、緑と花の名脇役で主役を一層もりあげていく、これが我々の願いです。

(管理課：南野良春)

園内の花の開花時期

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ハボタン												
パンジー												
水仙												
アネモネ												
花ナタネ												
クリサンセマム												
バラ												
デージー												
チューリップ												
ペゴニア												
サツキ												
ペチュニア												
花ショウブ												
マリーゴールド												
日々草												
朝顔												
カラジウム												
ケイトウ												
葉ケイトウ												
サルビア												
ラナンキュラス												
キキョウ												
小菊												
大菊												
アキランサス												
キンセンカ												
ヒヨウタン												
フリムホリアンサ												
松竹梅												

マントヒヒの人工哺育

§ はじめに

1984年10月3日にマントヒヒ(オス)が生まれましたが、生後9日目(10月11日)にオス親がメス親より子供を取り上げ、振りまわしたり、水に浸けたりしたためにオス親を麻酔し、子供をとり上げ人工哺育に切替えました。その後、順調に成長していますので、生後100日までの成長経過をご紹介します。

§ 両親の来歴

オスは1970年1月8日、メスは1969年4月18日、どちらも天王寺動物園において生まれ、人工哺育で育てられました。

§ 出産歴

最初の出産は1975年10月14日(性別不明)オス親による咬殺、以後4年程子供を出産することなく、1979年3月28日に出産(オス)をしましたが死産でした。1979年12月16日出産(オス)メス親を隔離し出産させましたが、1980年3月20日窒息で死亡しました。1982年4月21日(性別不明)を出産しましたが、1975年と同様オス親による咬殺で死亡しました。1983年7月10日(オス)の場合は1979年同様にメス親を隔離し出産させましたが、1984年3月16日肺炎で死亡、1984年10月3日(オス)生後9日目より人工哺育に切替え現在に至っています。

過去の出産では、メスの出産が近づくにつれて、オスの落ちつきがなくなり、出産後子供をメス親から奪い取り、殺したりする行動が見られました。出産前のメス親を隔離して出産させ、隔離飼育を試みたこともありましたが、オス親との見合時にメス親がオス親のさけび声におどろき、子供を強く抱きしめて窒息死させたり、予備室が無い為に簡易な移動



哺乳中の“さとし”生後10日目

檻で飼育した結果、寒い時期に子供が肺炎をおこし死亡したこともありましたが、今回は予定よりも早く出産したためにメス親を隔離することが出来ず、生後9日目までオス親と同居していました。

§ 哺乳方法

ミルクは人間用の調整粉乳を使用し、濃度は人間

に準じました。哺乳ピンは最初、犬用を使い、生後59日目より哺乳量が増えたため、人間の赤ちゃん用に変えました。保育には人間用の保育器を用い、当初28℃、湿度70~80%に調整し以後1℃ずつ下げ生後100日目ぐらいには26℃に下げ、保育器の下にバスタオルを敷きました。

§ 哺乳量、回数、および体重変化

哺乳回数は生後10日~12日目までは6回、13日~25日目まで5回、26日~40日目まで4回、41日~100日目まで3回でした。

離乳は生後41日目よりベビーフード(フルーツ、ミックス)を与え、66日目より固型物として、リンゴ、バナナ、キャベツ、パンを与えました。哺乳量、体重の変化は別紙グラフのとおりで、生後哺乳量は41日目まで2倍、85日目まで3倍となりました。

体重は人工哺乳の開始時は770gであったものが生後91日目で1540gと2倍になり、生後100日目で1650gになりました。

§ 成長経過

生後9日目オス親に奪われ全身打撲のために人工哺育に切り替えました。12日目から緑色便のためビオフェルミン、0.2gを1日3回投与し始めました。生後12日目に上門歯が1本はえ、13日目に上顎の門歯2本目のはえはじめました。18日目には、下門歯が1本はえました。(人間の幼児でも同じであるが、普通は下門歯からはえて、上門歯がはえてくるものです。歯科医大や開業医の先生に聞いて見ましたが人間の場合一種の奇型だそうです。成長には影響が無いとのことでした。)19日目、右後肢につかむ力がないために、ビタミンB₁、ビタミンAD₃Eの投薬を開始し、湯に浸けマッサージをし日光浴を始めました。(オス親に振り回された時に筋肉をいためたものと思われ、何回かレントゲン写真をとりましたが骨には異常が見られませんでした。現在も少し足をひきずる時もあるので気をつけています。)



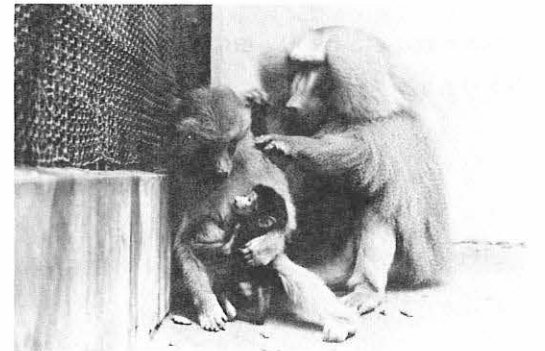
離乳食を食べる“さとし”生後44日目

25日目に、下門歯2本目のはえしました。27日目、やっと立つようになるが、右後肢が不自由なので、マッサージは続けました。41日目に、ベビーフードを与え、リンゴを門歯にこすり味を教えると、リンゴをかじりだしました。49日目に、ビタミンB₁の投薬を中止しました。64日目に、固型物を少し与えると、ベビーフードを食べなくなり、65日目より固型物、リンゴ、バナナ、キャベツ、パンを食べ始めました。100日目に、右後肢はかなり回復し、保育器の中で走りまわられるようになりました。

§ おわりに

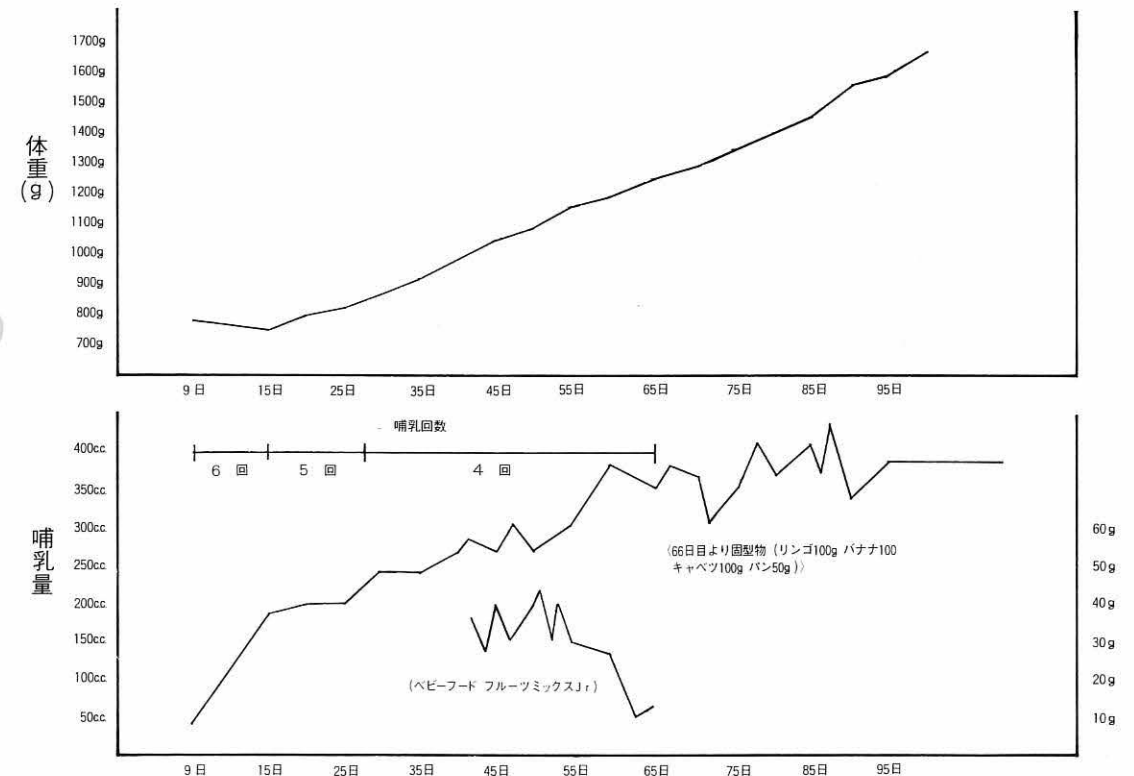
今回の人工哺育はオス親から受けた打撲による、後足の麻痺以外には、大きな問題もなく行なうことが出来ました。その後同じ親が、1985年5月4日にメスの子供を再び出産し、オスの攻撃が心配されましたが、今回はオスの子殺しもなく、2ヶ月以上もオスと同居したまま順調に成育しています。この理由はいろいろ考えられるでしょうが、私は以前6回出産し、全部がオスであった為にオス親が子殺しを行っていたのだが、今回無関心なのは、子供がメスであることを生理的に見分けているのではないかと考えています。

最後になりましたが、人工哺育で成長したマント



仲むつまじいマントヒヒ一家。抱いている赤ちゃんは“さとし”の次に生まれたメス

ヒヒ(さとし)は、いずれ他園へ出園することになると思いますが、人工で育った動物の悲しさか、なかなか仲間とうまくやっていけないでしょう。それを認識しながら育てた私は、彼が他園に行っても仲間や飼育係に嫌われることのないよう、普通のサルよりも一層きびしく育ててきました。あまえないときもあったでしょうが、あえて無視し、一人で対処できるようにと思い、育ててきました。“さとし”にはつらい思いをさせたと考えています。だがそれが、私が彼に贈ってやれる最高のプレゼントだと思っています。(飼育課:原田 勉)



動物なんでも相談室 ⑩

動物が蚊にさされたり、虫にさされたりすることがあります

高石市 大川 陽子

もちろんあります。しかし、さされても我々ヒトのようにかゆがる動物はみあたらないようで、ヒトに近縁のゴリラやサル類でさえ全くそのとうりで、動物では皮膚の反応がにぶいのでしょう。とはいうものの、蚊が群をなしてやってきたときなどはたまったものではありません。眠りたいとき眠れませんかから当然のこと動物たちも睡眠不足になり、イライラします。これが原因で病気になったりもしますから、蚊の駆除も動物園では、動物のための健康管理上の大切な仕事になっています。また、イヌの病気としてよく知られているフィラリア症は、蚊がフィラリアの子虫を媒介することで起こりますが、動物園ではイヌの仲間にはいるオオカミやタヌキ、キツネなどもフィラリア症になることがあります。

さされてかゆくなくとも、こんなところに蚊による大きな害が動物たちには現れてくるのです。ですから蚊には充分注意しましょうね!!

(回答: 森本 委利)

(イラスト: 山下 奉之)



8

動物にも人と同じように血液型がありますか。

動物にも血液型があります。

血液型という近頃では、性格の判定をするためのものと思っている人も多いようですが、そうではなく、輸血する時、間違った組合せをすると血液が体の中で固り、ショックで死ぬこともありますから、

その安全性を見きわめるために重要なものです。

人の血液型の分類には大きく分けて2つの方法があります。同じ種の動物の血清で固るかどうかで見ると、他の種の動物の血清で固るかどうかを見る方法の2つです。一般的に知られているA B O型は前者です。後者ではウサギの血清を用いるMN式やブタの血清を用いるQ式などがあります。

動物にも血液型があり、ヒトと同じように同種の血清や他種の血清を用いて分類されています。ただ動物では血液が固る素になるものがとても多くあり、複雑なので、ヒトのA B O型のように確立されたものはあまりありません。ネコでは4つの型があるとされ、ウマでは16の型があるとされていますが、今後研究が進めばもっと詳しいことがわかんと思います。

(回答: 長瀬健二郎)

(イラスト: 藪野 幸司)

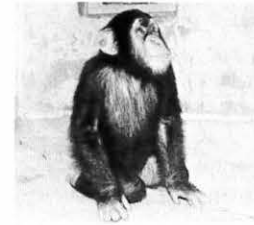


動物園ニュース

§ チンパンジーのオス来園

チンパンジーのオスが、6月10日来園しました。来園したのは、1983年2月8日に静岡市の日本平動物園で生れ人工哺育で育った“リッキー”という名の2歳4ヶ月のオスです。

当園では、1981年12月にオスの“リカ”を失って以来メス4頭を飼育してきただけに待望のオスの来園となりました。



人工哺育で育っただけに人にはよく慣れており環境にもすぐ慣れ、順調に飼育されています。まだ体重も13kgの子供ですので、繁殖はまだ数年先のことになるでしょう。

§ アシカの赤ちゃん!!

先月号でカリフォルニアアシカの赤ちゃんが、6月16日に生れたことはお知らせしましたが、6月24日にも今年2頭目の子供が誕生しました。共にメスで、先に生れた方は順調に成育しており、体重も生後約1ヶ月で3.3kg増加しました。

しかし、後に生れた方は、体重が減少し始めたため7月6日から強制哺乳を開始しました。子供は親につけたまま1日1回捕獲し、水生動物用のミルクを与えています。その結果、最近ではやっと体重が増加してきました。

§ オウサマペンギンの産卵

7月13日オウサマペンギンが、産卵しました。このペアは今年の4月11日にも産卵しており、本年2回目です。前回は屋外での産卵で、途中で破卵してしまいました。今回は冷房室内での産卵ですが、ぜひうまくふ化してほしいものです。ふ化日数は56

.....

現在の飼育動物数 (1985年6月30日現在)

哺乳類	13目	111種	437点
鳥類	19目	177種	552点
爬虫類	3目	30種	58点
計	35目	318種	1,047点

~58日ですのでふ化のニュースをお伝えできるのはかなり先になるでしょう。

§ キリン入園!!

7月17日オスのアミメキリンがはるばる東京の多摩動物園からやってきました。

一昨年(1983年)の1月13日に長年飼育してきた“タカオ”が死亡し、その後昨年(1984年)の1月15日に生れた子供の“ムツコ”もメスであったため、繁殖の望みがたたれていました。そこで、昨年生れの“ムツコ”と交換で新しくオスを入れることになりました。

来園したオスは、1983年7月17日生れで“ナガヤ”と名付けられています。まだ、2歳であるため繁殖は5~6年先になるでしょう。

§ タスマニアデビルの赤ちゃん死亡

5月7日に確認されたタスマニアデビルの“ミミ”の赤ちゃんは、その後順調に成育し7月に入ってから、育児嚢から体が出ているのが観察されてきました。しかし、残念ながら7月8日突然赤ちゃんは行方不明となりました。死亡したものと考えられます。

§ 動物園技術者研究会開催

日本動物園水族館協会の昭和60年第1回近畿ブロック動物園技術者研究会が、6月26日当園で開催されました。近畿地方の11の動物園から32名の方々が出席され、12題の研究発表がおこなわれ、熱心に討議が行われました。

§ 日本動物園教育研究会開催

第21回をむかえた日本動物園教育研究会が、当園で7月3日開催されました。全国から動物園での教育活動に興味を持っておられる方々が80名以上参加され「展示としての動物舎」というテーマのもとに発表と討論が行われました。翌4日は、国立民族学博物館を見学しました。

*** 休園日のお知らせ ***
動物園の休園日は毎月第3日曜日です。9月までの休園日は下記のとおりです。
8月19日(月)、9月17日(火)(月曜=祝日の振替)
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。



ゆとり満喫、信頼のカード。



ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード **KIPS**
(キップス)

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの
ご利用にはいろいろな特典が。

近鉄百貨店 お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ
●アベノ店7階●上本町店10階●東大阪店本館●奈良店4階●西京都店1階
(京都ファミリー)

●オールカラー

ひかりのくに 監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

むし
くらしとかいかた

今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きつとすはらしいことに出会えるはずだ。

85変形 580円
84ページ

ひかりのくに株式会社
〒543大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購入をお奨めします。
年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、 **大阪市天王寺動物園協会** へ
TEL 06-771-0201

世界初の最高感度
(カラープリント用フィルム)

1600 新登場!

カラの大林
桜橋本店 ☎341-8091
三番街店 ☎372-5031

フジカラー HR 1600
ISO1600/33° 135-24枚撮



天王寺動物園

ZOO GUIDE の

ご購入をおすすめします
(1冊 ¥450)
園内各売店にあります

あらゆる動物に愛の手を!

社団法人 大阪動物愛護会

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

猫の歴史と奇話

(定価・2600円)
A5判・260頁
口絵挿画・113図

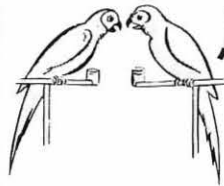
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史
欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説
老猫化けてさまざまな怪異をなす |
| 第三章 猫の報恩談
蛇を咬んだり、金を運んだりする | 第四章 野性猫の存在
裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡来など |
| 第五章 猫の奇話(上)
長命、多産、三毛猫などの形態の奇話 | 第六章 猫の奇話(中)
長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)
マタビを媚薬とする奇妙な習性など | 第八章 益獣としての猫
あらゆる角度から猫の生態と効用を探究 |

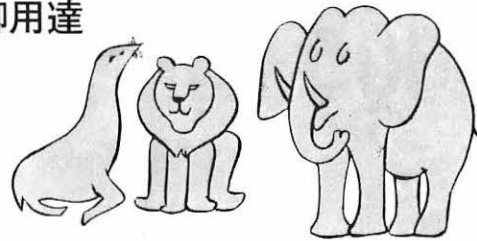
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話、は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、ご休憩は

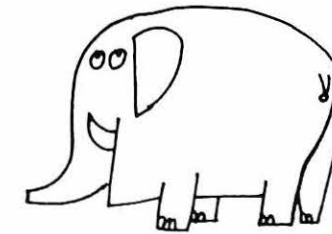
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎ (06) 771-0973



天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶臼山町6-74
電話 (06) 771-7110番

園内でのお写真は…
動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願い致します。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせていただきます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグル

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

夜行性動物舎完成記念

キーウイの
ぬいぐるみ

新発売

1コ 2,300円

協会で……！



なきごえ 昭和60年8月10日発行（毎月1回10日発行）第21巻 第8号 （通巻240号）

編集 / 大阪市天王寺動物園

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価 100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823

1年継続 (12部) 1,100円 (送料共)

編集委員

（土井 良彦・伊藤 重朗・小出 雅三・樽本 勲・中川 哲男・前田 豊彦・宮下 実）
（長瀬健二郎・榎原 安昭・森本 委利・大野 尊信・山下 奉之・農本 武志・野口 秀高）
（早川 篤・数野 幸司・堀 弘・大川 光雄）